

## テングザルの導入・展示について

清野悟、賀曾利亜紀、松本令以、江村綾、近江谷知子

(横浜市立よこはま動物園)

よこはま動物園ではテングザル (*Nasalis larvatus*) をインドネシア共和国、スラバヤ動植物園から導入し、2009年6月より展示を開始した。今回はその受け入れのための準備と検疫、展示までの飼育経過を報告する。導入に当たっての事前の準備としてまず、2名の飼育担当職員を現地動物園へ派遣し、実際に現地での飼育環境、飼料などの調査を実施した。さらに当園の受け入れ場所である検疫場所、収容予定の獣舎施設の整備改修をおこなった。検疫場所の整備は、園内動物病院の一部を改修し法定検疫に対応できるようにした。獣舎施設は以前キンシコウを展示していた獣舎とし、新たに屋外展示場の一部に遠赤外線ヒーターを備えたシェルターを設置するなどの、冬期の寒さ対策を主におこなった。飼料については現地で給与している飼料のほかに、国内外の飼育経験のある園館での給与飼料や、当園で飼育中のリーフイーター(フランソワルトン、ダスキールトン、ドゥ克蘭グール、キンシコウ)の飼料を参考に準備をした。現在では6種の木の葉(シラカシ、トウネズミモチ、マサキ、シャシャンボ、サクラ、ヤナギ)と青バナナ、インゲン、ニンジン、キュウリ、ハウレンソウ、小松菜、リンゴ、食パン、ペレットなどを中心に給与している。2009年3月31日に5才から6才の亜成獣5個体(雄2、雌3)が輸入され、動物病院で輸入検疫を開始した。輸送や検疫はストレスが大きいと懸念されたが、体調を崩すこともなく無事、法定検疫(30日間)、自主検疫(18日間)を終了した。その後、2週間ほど展示場への馴致を行い一般公開とした。導入前は神経質な動物で、新たな餌や飼育環境に順応できるかが心配されたが、公開後も大きなトラブル等なく順調に展示ができています。今回の導入の成功は、個体が若く順応性が高かったこと、また事前の準備が十分できていたことが大きな要因と思われる。